

令和5年度事業用自動車に係る総合的 安全対策検討委員会資料

2023年11月17日

一般社団法人日本自動車工業会

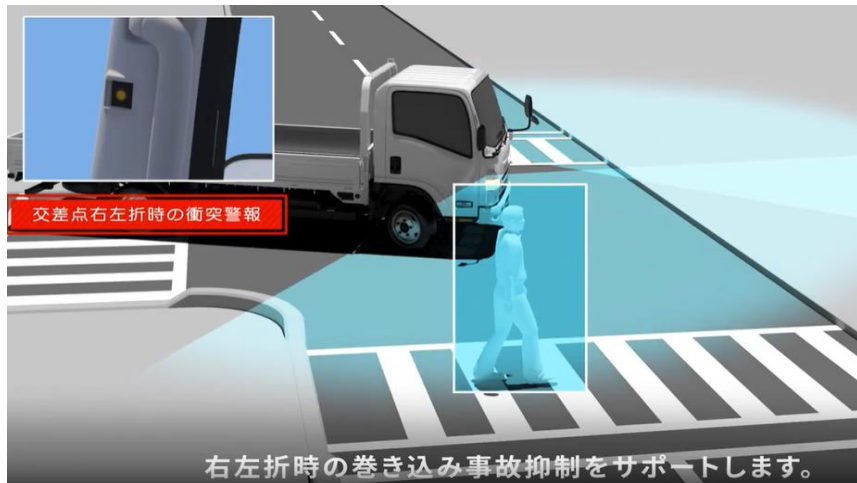
1.新たな日常における安全・安心な輸送サービスの実現 / 3.ICT,自動運転等新技術の開発・普及

①新型コロナウイルス感染症拡大に伴う運送労働環境の変化と附帯作業の増加への対応 / ②自動車の先進安全技術の更なる普及

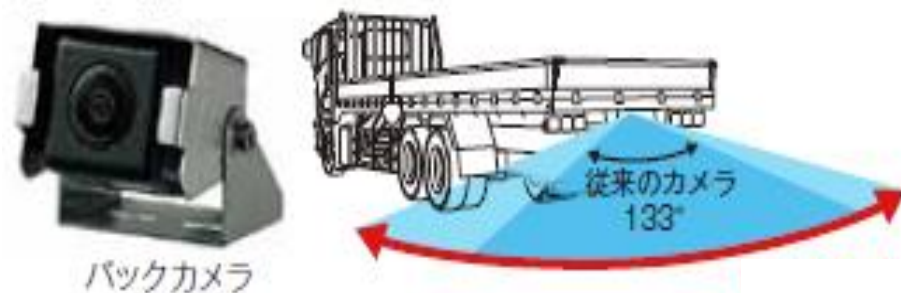
(1)交差点通過時等の安全確保

低速走行時前方衝突警報装置 (MOIS)

交差点警報を日本版MOISとして各社商品販売中。

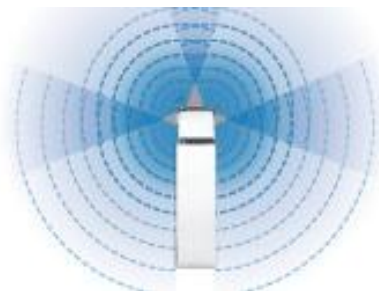


後退時車両直後確認装置 (バックカメラ)



側方衝突警報装置 (BSIS)

大型貨物自動車が左折時等に自転車と衝突するおそれがある場合に運転者に警報する側方衝突警報装置。2022年5月から国内向け新型車へ搭載。

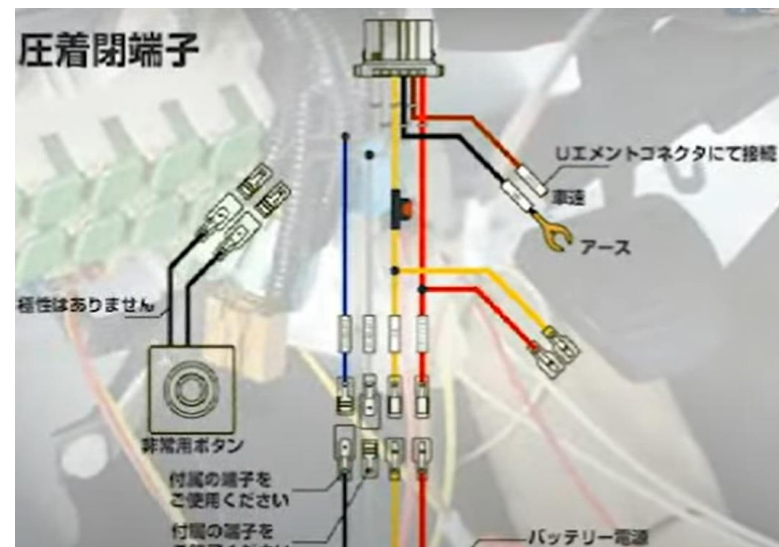


(2)AALS (Alcohol Interlock System)

アルコールインターロックシステムとは

運転者が装置に息を吹き込み、呼気にアルコールが検知されると警告音となり、エンジンが始動しないようにする装置です。

エンジン始動前と運転中にチェックを要請およびデータが記録され、飲酒運転発生リスクを確実に減らすことができます。



(3)DMS(Driver Monitor System)による監視による研究

ドライバーの運転注意力を監視し、眠気やよそ見などの注意力低下を警告する装置

- 運転時の操舵量や蛇行率、平均車速などの運転状態をモニターする
- 顔認識カメラでドライバーのわき見やまぶたの動きを感知、注意力低下を高精度に分析



(4) ドライブレコーダー、デジタルタコグラフ（運行管理システムの高度化）

例：【高度な運行管理システム】

- ネットワーク型車載機で記録した運行情報を元に、日報などの管理帳票、ドライブレコーダー映像をリアルタイムにどこからでも活用できる運行支援サービスが可能。
- 商用車の運行情報と車両コンディション情報を活用した高度な運行管理や稼働サポートサービスの提供に加え、荷主・運送事業者・倉庫事業者等の基幹システムをはじめとした多様なデータ連携が可能。



(5) 「車いすの固定方法の容易化」研究 / 「ベビーカーの乗り入れ易さ」研究

● 車いす固定位置の指示コーション追加。種々の固定ベルトを使って容易で確実な仕様を選定。



車いす固定装置-前側
(据付巻取り式)



車いす固定装置-後側
(据付巻取り式)



(A) 手動ロック式



人ベルト



(B) 別ベルト巻取り式



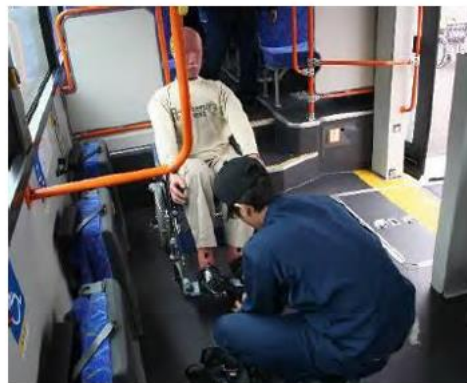
(C) 据付巻取り式

図 3. 1 車いす固定装置(ベルト)と人ベルト

● バス車室内の車いす固定装置と固定ベルトを使って車いす固定の実作業をバス運転者にて行った。



後側



前側

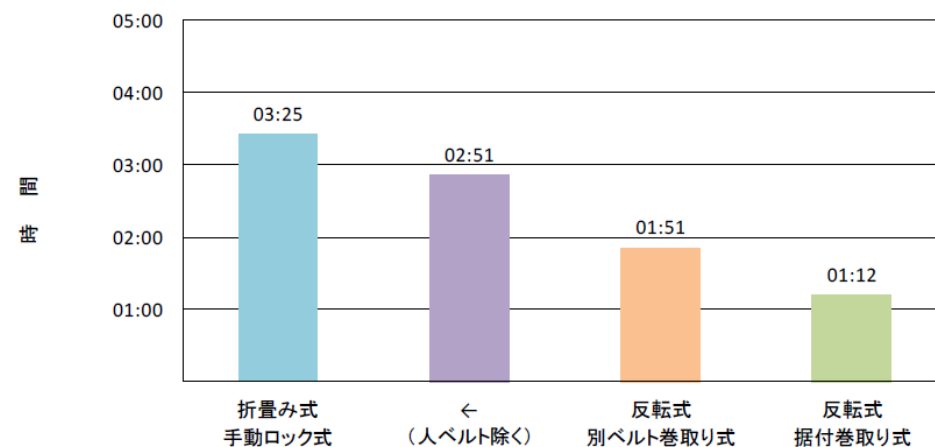
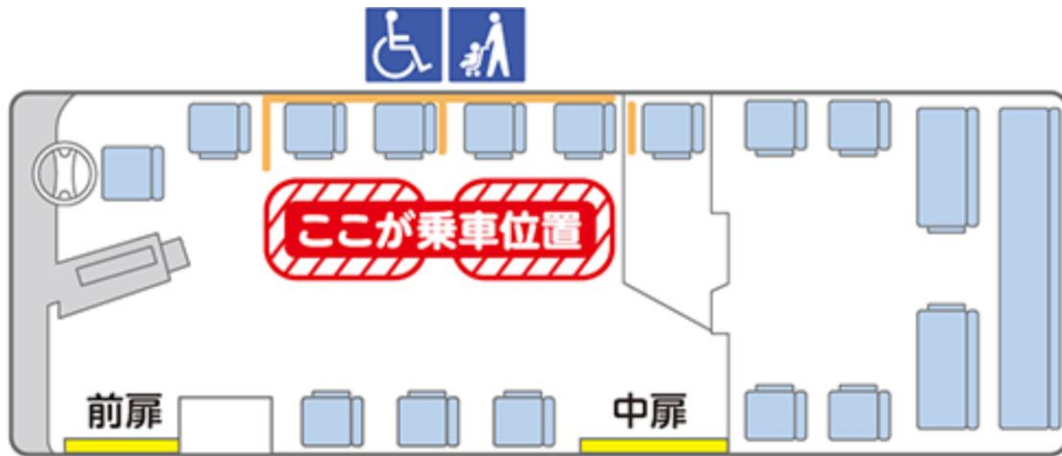


図 3. 8 全体作業時間

(5) 「車いすの固定方法の容易化」研究 / 「ベビーカーの乗り入れ易さ」研究

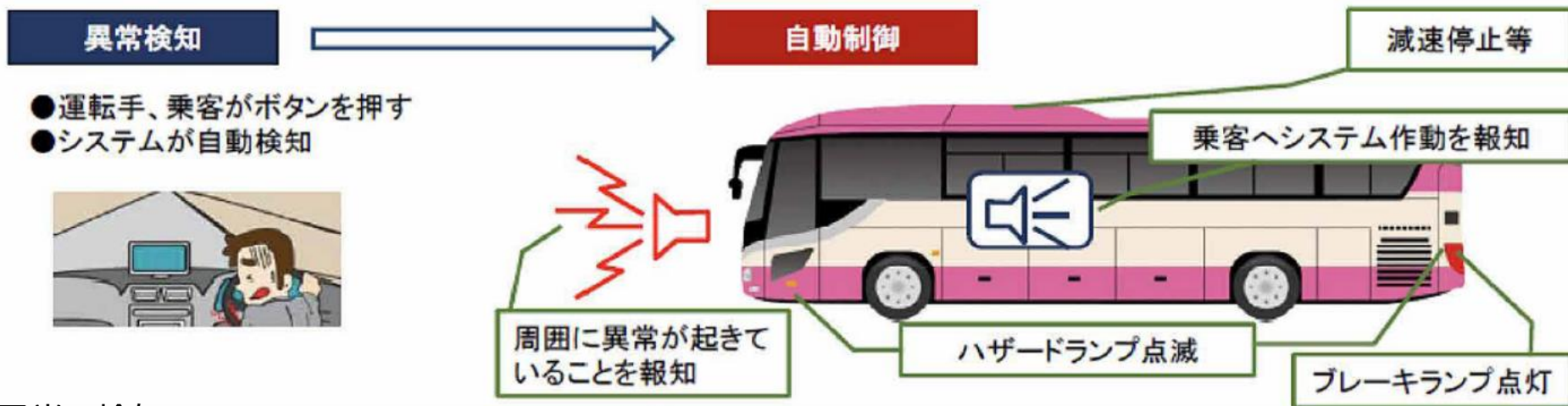
- ベビーカーは、進行方向の後ろ向きに指定の座席に横付けし、ベビーカーの車輪のストッパーをロックします。



ヨコ型二人乗りベビーカーの場合、乗降は中扉から



(6)ドライバー異常時対応システム —観光バスの事例— (EDSS : Emergency Driving Stop System)



<異常の検知>

押しボタン方式 (運転手、乗客が非常停止ボタンを押して車両を停止させる)

: 2018年3月より全社標準装備

自動検知方式 (システムが自動で検知し車両を停止させる)

: 2019年7月より切り替え

<車両の停止>

単純停止方式 (操舵無し) : 2018年3月より全社標準装備

車線内停止方式 (操舵は車線維持のみ) : 2019年7月より切り替え

路肩停止方式 (徐々に減速し路肩に寄せて停止) : 検討を継続中



トラックについては、2021年5月より、自動検知方式、車線内停止方式で装備を開始